

委員会報告書

委員会名 第1回(特別)グローバルアシスト委員会
開催日 2011年8月18日(木) 13:30~16:00
開催場所 330複合地区ガバナー協議会事務局会議室
記録者 L赤坂 稔
出席者
委員長 L桜井 幸一 副委員長 L梶原 正和 同L矢部 祥榮
委員 L坂本潤之輔 L佐原 幸雄 L内田 吉則 L赤坂 稔

次回委員会 2011年8月30日(火) 13:30~15:30

議 事

13時35分、司会L矢部 開会し、坂本委員、午前の会議で少し遅れるとの報告。

1 開 会

L梶原副委員長開会の挨拶 委員会の名称がグローバルアシスト委員会となった。今後、中長期に亘って桜井委員長を中心に、皆で協力し合って目的を果たしたい。

2 委員長挨拶並びに活動方針

L桜井委員長 ご出席をいただき感謝している。6月22日引き継ぎ会で新体制となった。今日までの経緯について色々あったが、一年任期のライオンズのシステム、被災地区組織の問題、支援システム事務処理上の問題や不都合な一面を露呈したりと、初年度は反省すべき点、改善を要すべき点がいくつか生じたことも事実である。しかし、皆様の協力で大いに人道的支援活動ができた。

この一年間の経験を生かして、今後の活動の方向について委員の皆様から活発な意見を賜りたい。

アシスト委員会の役割として、現状いくつかの具体的な課題も発生している。一つは、ボシュロム社からの10万ドル(800万円)の寄付金で、アイバンク関係の支援に役立てるために、22日関係者が会って相談することになっている。

二つはドイツの単一クラブより20万ユーロ(200万円)さらに10年にわたって毎年2万ユーロを養護学校子どもの支援に、とのお話もあり被災地との提携に「橋渡し」をしてほしい、などの具体的課題である。

3 委員自由意見〔箇条書き・発言者名省略〕

- ▶ 日本在住のドイツ人によるピアノコンサートと、グランドピアノ寄贈の事例がある。
- ▶ 前年度からの継続事業も残っている。
- ▶ 物的支援はもう終わった、と言ってよいのか。
- ▶ 奨学金10億円の話もあるが、LCIFの認定が必要ではないか。
- ▶ MD332の考え方が大事である。
- ▶ 現地の情報収集が大事だ。
- ▶ このアシスト委員会の位置づけをどうするのか、緊急対策、連絡網の大切さ、東日本以外のことも含めて窓口を作ることだ。
- ▶ 援助に要する輸送費などもアシストで負担するとか、LCIFで負担してもらえとか。
- ▶ ホームページの活用でクラブ同士の連携を深めていくことも重要。
- ▶ 1年交替のライオンズでは莫大な支援金の管理には無理があるのでNPOの立ち上げなどを本部に提案したい。
- ▶ 国や自治体が行うべき支援との線引き。
- ▶ 組織図に示されている被災地ガバナー組織の、アシスト委員会に対する共通認識が大事。
- ▶ 八複合がサポート、アシストのことを知らない状況。
- ▶ ホームページにアシスト委員会のフォームを載せてPR。
- ▶ 八複合の会議のあと、やはり現地に行って現状を把握する必要がある。
- ▶ ボランティアで介護に当たっている人たちがいなくなってしまう。
- ▶ 仮設住宅に入っている人たちの米・味噌・醤油の問題もある。
- ▶ プールされている資金は、本部の権限で順次被災地の支援使っていくべきお金である。

全体会議の席でアシスト委員会の使命を決めてホームページで知らせていくべきだ。

ライオンズ年度の終盤に実施された各クラブの支援アクティビティがまだ掌握できていない、実績を梶原副委員長にFAXで知らせてほしい。

最後に桜井委員長が次回の委員会日程を発表して委員会を閉会した。

時に16時。